

家庭塾連絡会の

春の集い

2025年 2月16日(日)

13:00
?
16:00

受付：12:30～

えんぴつを正しく持つと何がいいの？ ～疲れない持ち方で集中力をつけよう～

えんぴつの正しい持ち方をみなさんは知っていますか？最近の子どもたちを見ていると、正しい持ち方で字を書いているのは全体の約半分いるかどうか？私たち大人もできているか不安なところですよ。

「なぜ、正しいえんぴつの持ち方が大切なのか」「今からでも正しい持ち方に直すことができるのか」を一緒に考えてみたいと思います。

元小学校教諭で「持ち方伝道師」の前田先生をお招きして、実技を交えながら学ぶ予定です。

筆記用具をご持参ください（あれば2B鉛筆も）

ぜひ、ご家族、そして教職を目指す方など周りの方にお声かけいただき、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

補助具『ユビックス』は、ご希望の方に当日お分けできます（300円）

《場所》下京いきいき 市民活動センター（3F 集会室）

京都市下京区上之町38

①JR京都駅から東に歩10分

②京阪七条駅 歩8分

Zoom 参加希望の方は
ご連絡を!



《参加費》600円

ZOOM参加希望の方は内田まで
nao_uchida_drum@yahoo.co.jp

電話：090-5979-8657

《定員》24名

《申込》メールは西尾へ

Fax・電話は影浦へ
当日受付もあります。



主催：全国家庭塾連絡会

事務局 影浦 邦子方

〒564-0041 大阪府吹田市泉町4-29-13

電話&Fax：06-6380-0420

E-mail：j.s.y-769@maia.eonet.ne.jp（西尾）

当日連絡先：090-8658-2087（西尾）

090-1221-3614（小松）

090-2110-0620（影浦）

後援：新日本婦人の会京都府本部

‘24年「春の家庭学習交流会」の様子

2月18日(日) 下京いきいき市民活動センターにて。参加者は13名でした。

<講演>

・「家庭学習の習慣を考える～低学年のうちから無理なくコツコツが生きる力を育てる～」岸本ひとみ さん
(学力研常任委員長)

長年、そして現在も現役で小学校教育に携わり、ご自身も「家庭塾」に取り組まれた立場から、小学校時代につけたい学習習慣の大切さ、家庭塾の役割について、お話しいただきました。



教育の転換期に直面している今、何を大切に、家庭、学校のつながりでも乗り越えるか。1人1台端末の使用は、低学年ほど、家庭に持ち帰らせると格差が生まれる。学校でさえ、ID/パスワード等、準備の待ち時間に差が出るものを、あえて使わせないといけないのか。その時間が、音読や計算練習の時間を奪いがちだ。イマドキの子どもは、「つながり」を作るのが下手。コロナ禍でできなかった鬼ごっこを経験していないと、負け方が分からず、トラブルを起こしがち。コミュニケーション不足は、外遊びの大切さを伝えていた。

保護者は、子育てを外注(?)しなければならぬほど余裕がない。子どもと同じでつながり下手になってしまっている。そのため子どもに目指させるものが極端(低学年からプロスポーツ選手など)で、学習と並行させず、習い事に猛進する。しかし、ほとんどの保護者の、学校への期待は変わらず、毎日の勉強や宿題を大切に思い、求めているもの。華やかなタブレット学習だけではない。読み書き計算に代表される、コツコツ行われる無理のない学習が、「当たり前」の学習で、それを身につけていけば、地元の高校には進学できる学力はついている。それを行ってきた家庭塾で育った子は、本番に強い。無理なくコツコツ積み上げてきたものが、生きる力になっているようだ。

低学年の家庭学習は、ダイニングテーブルでいい。例えば宿題も、親御さんが見てあげるこきたね」「上手だね」と、『大人が子どもの成長に声をかける』ことが大切。低学年の子どもは、1人では勉強できない、ということも考慮してやってほしい。

寺子屋、学童保育、孫塾、家庭塾、形はいろいろあっていい。子どもが1人でなく、一緒に勉強できる人がいる環境があればいいと思っている。

<交流>

・低学年のうちの学びは大切。スポーツ推薦による進学は、基礎学力をつけていないと、うまくいかなかった時に打つ手がなくなる。

・普通の勉強の“普通”とは、家庭塾でこれまでも行われてきた読み書き計算ととらえていい。

・学習指導要領の改訂で、内容が心配。

・つながり下手は、子どもも、大人も、教師も。

・宿題は、3・4年の国語、4・5年の算数で定着として大きな役割を果たしている。

・低学年の成功体験が、子どもを伸ばす。

・放課後デイの利用の増加

・不登校の対策は、20人以下の少人数学級編成。

・どんなことをどう学ぶかは、人間の発達と関わる学びになっているかが大事。

・大人が「見て」あげると子どもは変わる

・多動性のある子や、遠視の子は、タブレットの画面のちらつきが不向き。

・「絵を描く会」でつながる可能性

・親が形にとらわれず、無理なく、子どもたちにとっても「学び方」を選べるのが大事。

<家庭塾からの報告>

向島「のびのび」辻本喜代美 さん

今年度は3人(2年生・5年生・6年生)が参加。毎週水曜日、宿題を中心に行っている。そうすることで負担感を感じさせないように。サポーターも2名参加。

タブレットの導入で、高学年は宿題のやり方が変わってきた。漢字や計算ドリルはない。教科書は学校置きなので、学校でどんな学び方をしているのか、家の人が分からないのは不安。「来る」ことが楽しく、学べる形として生きている。

京都八幡「たのしく勉強会♪」 田野寛子 さん(代理報告 照屋さん)

今年で6年目。1月に新会員2名を迎える。2年生1人・3年生5人・6年生1人。毎週水曜日。サポーター1・2名。①日直あいさつ クイズタイム ②計算タイム(マス計算) ③漢字タイム ④自習タイム ⑤遊び(カードゲームなど) が流れ。

決して人と比べないこと、計算している間は、えんぴつの先から火がでるくらい集中すること。自習タイムは、家庭に合わせられるように、教材は自由に。簡単な内容をつつと続ける良さを伝え内容を考えてもらう。取り組んだ後は、家庭でほめてもらえるように声かけをする。

